能登半島災害　被災者支援事業

能登半島地震・豪雨被災者への“元気袋”をお届け!!

昨年の元日に発生した能登半島地震災害については、全老連が主唱されて、全国の老人クラブから拠金を募ったところであり、本県でも、各市町老連様の精力的なご協力により、１３００万円を超える拠金を被災地にお送りしたところです。（全老連加盟拠出額63府県市老連中第1位）

しかし、昨年９月には、「奥能登豪雨」が発生したため、今なお、多数の老人クラブの仲間が辛い日々を送られ、相当な精神的なダメージを受けておられます。

このため、県老連では、今年が阪神・淡路大震災から30周年の節目を迎えることも考え合わせ、県老連女性・若手委員会のご発案・ご決定により、被災地に「元気袋」を送ることとさせていただきました。

この県老連からの呼びかけに対し、年末・年始の多忙な時期で、かつ、製作期間も限定されているにも関わらず、各市町老連様の深いご理解とご協力により、全県の皆さまから９００個の「元気袋」が寄せられました。

この元気袋には、作成された方の『自筆メッセージ』が添えられており、被災地の皆さまに寄り添う皆さまの熱いお心遣いをお示しいただけました。

皆さまから頂戴した元気袋の一部は、１月末に、全老連と石川県老連へサンプル送付させていただき、これを受け、３月には、全老連に加え、東日本と西日本の老連代表者、さらに本県老連からも中村会長が参加し、現地の被害の状況の把握に加え、災害時における高齢者や老人クラブの役割等について懇談を行う予定です。